

エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会

高松会場

■日時

平成24年8月4日(土) 13:00～15:00

■場所

かがわ国際会議場

■参加者数

一般参加者:120名/報道関係者:18社39名

■当日の様相

※一般参加者のお名前については、英文字に置き換えさせていただきました。

■議事録

<開会>

◎司会者

大変長らくお待たせいたしました。ただいまより、エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会を始めさせていただきます。

皆様、本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。本日は167件の参加お申込者全員を当選としました。12時55分時点での実際の来場者数104名です。また報道関係者の事前登録数は18社43名となっております。

また、意見表明希望者につきましては、0%シナリオに対する意見表明希望者28名、15%シナリオに対する意見表明希望者10名、20～25%シナリオに対する意見表明希望者10名、3つのシナリオ以外に対する意見表明希望者19名、参加のみの希望者100名です。この中から無作為抽選で選ばれました15%シナリオに対する意見表明希望者から2名、20～25%シナリオに対する意見表明希望者から2名、3つのシナリオ以外に対する意見表明希望者から2名、ゼロ%シナリオに対する意見表明希望者から6名、計12名の意見表明者の方から、それぞれ7分程度でご意見を表明していただきます。

現在、政府はエネルギー・環境会議において、東日本大震災、および東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、エネルギー・環境戦略の見直しを行っています。6月29日の同会議において、2030年のエネルギー・環境に関する3つの選択肢を取りまとめました。今後、本意見聴取会をはじめとした国民的議論を礎として、8月にエネルギー

ギー・環境の大きな方向を定める「革新的エネルギー・環境戦略」を決定し、政府として責任ある選択を行います。

ここで、本日のスケジュールをご案内いたします。まず初めに、細野豪志環境大臣のあいさつの後、政府担当者より、エネルギー・環境に関する選択肢における 3 つのシナリオについてご紹介させていただきます。その後、希望者の中から抽選で選ばれた 12 名の意見表明者からお 1 人様 7 分以内をめぐり、ご意見を述べていただきます。

また、全員の意見表明の終了後に、同じ 12 名の皆様から、それぞれの意見内容についてのご意見、ご感想がありましたら、お 1 人様 2 分以内を目安にご表明いただきたいと思います。ご来場の皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたり、細野環境大臣から、ごあいさつ申し上げます。細野大臣よりよろしくお願いいたします。

<大臣による冒頭の挨拶>

◎細野大臣

皆さん、こんにちは。環境大臣をやっております細野豪志でございます。今日は、ここ高松で開催をいたしました意見聴取会に、本当に多くの皆様に足をお運びいただきました。心より感謝を申し上げます。

現在、エネルギー・環境に関する意見聴取会ということで、全国 11 カ所での開催を続けておまして、今日は四国での開催ということで、恐らく四国一円から、もしくは西日本の中でこの会場にということでご参加をいただいた方もいらっしゃるかもしれません。多くの皆様のご参加を得て、意見聴取会を開催することができました。貴重な機会でございますので、しっかりと私ども皆さんの声に耳を傾けたい、聞かせていただきたいというふうに思っております。

具体的に皆さんからご意見を伺う前に、政府の現段階での考え方を少しだけ述べさせていただきますと思います。昨年の東京電力の福島第一原発の事故で、これは日本のエネルギー・環境に大きな変化をもたらしました。これまで、原子力をエネルギーの柱と位置付けておりましたけれども、この大きな事故があった以上は、これは「原子力からグリーンへ」という大きな方向性を、政府としては推進をしていきたいと考えております。

恐らく多くの国民の皆さんの中でも、できる限り原発への依存度を下げていきたいという思いは共通した部分があるのではないかと、そのように考えております。そうした大きな方向性を維持しつつ、一方でグリーンにできる限り投資をしていく際に、様々、これから考えていかなければならないことがございます。

具体的には、例えば太陽光や風力ということになってまいりますと、現段階では価格が高いという問題がございます。また、天候による不安定さをどう克服していくのか。こうした問題もございます。そうした様々な問題をどう政府として克服をしていくのか、さらには国民の皆さんにもご協力をいただかなければ克服をすることができないという、このことを考

慮した上で、2030年までにどこまで原発の依存度を下げ、どの程度のコストをかけて、どこまで再生エネルギーや省エネを拡大していくのかということを開き掛けてまいりたいと思っております。

原発を大きく減らすということになりますと、グリーンへのシフトをより早く、そしてより大きくしていくことになります。その部分のまさに力を、どういった形で皆様のご協力をいただいで入れていくのかということでもあります。

一方で、逆に原発を減らす度合いをより小さくして、またそのスピードを遅くする場合には、大前提といたしまして、国民の原子力に対する強固な信頼を回復することができなければ、その実現はできません。この部分についても、国民の皆さんから厳しい声が出ていることについては私自身もよく認識をしております、様々なご意見が皆様方の中からあろうかと、そのように考えております。

以上のような前提に立ちまして、エネルギー・環境会議といたしましては、「原発からグリーンへ」という共通の方針の下、3つのシナリオを皆様に用意をさせていただいております。各シナリオは、原発の低減の度合い、再生可能エネルギー、省エネの拡大の度合いやスピードに関しまして違いがございます。その違いについては、この後、担当者の方から説明をさせていただきますので、ぜひその説明を聞いていただいたうえで、様々なご判断をいただきたいと思っております。

我が国は自前の資源が極めて乏しく、これまでも、変動する国際情勢や技術革新の動向に応じまして、大きなエネルギーの選択を経験をまいりました。高度経済成長期には、石炭から石油へという大きなエネルギーのシフトをいたしました。石油危機に際しましては、あらゆる代替エネルギーの開発に努め、世界に誇る省エネ国家をつくることに成功いたしました。

今の日本の状況は、こうした過去のエネルギーの変革期と比較をしてもきわめて深刻なエネルギー危機にあるといっても、私は言い過ぎではないだろうと思っております。今回は原発からグリーンへのシフトを中核といたしまして、こうした状況の変化にできる限り柔軟に対応できる、そして、国民の生活や国民の経済というものをしっかりと支えることができる強いエネルギー構造を、皆さんの力を借りてぜひとも構築をまいりたいと思っております。

また繰り返しになりますけれども、そうしたことをするというのを考えた時に、これまではエネルギーというのは大規模な集中電源が主力でございましたので、どちらかというと消費者の皆さんや生活者の皆さんからは遠いところにあった問題であったかもしれません。しかしこれからは、小規模な、そして地元のエネルギーを様々な、これから育てていかなければならないという意味で、エネルギー問題が皆さんの生活にまさに直結をした課題となつてまいります。ぜひとも皆様のご協力も得て、このエネルギー危機を乗り切りたいと思っておりますので、ぜひとも皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、今日の会議の運営についてでございます。できるだけ多くの皆さんの率直な意

見をいただきたいと思っておりますが、どうしても時間の制約から、12 名の方から意見表明をいただく形になりました。12 名の方にはそれぞれ、恐らくご準備を相当してこられたのではないかと思いますので、しっかりとお話を聞かせていただきたいと思っております。

大変恐縮でございますけれども、この抽選に漏れた方も多くいらっしゃると思います。そうした方々のご意見は、アンケートを配らせていただいておりますので、そこにぜひご記入をいただきたいと思っております。私どもは、そのアンケートも全て読ませていただきまして、それもしっかりと受け止めた上で、エネルギー政策を検討してまいりたいと思っておりますので、ぜひその点についてはご容赦を賜りますようお願いを申し上げます。

きょうは本当に貴重な時間をいただきまして、ここにお集まりいただきました。心より最後に感謝を申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

◎司会者

細野大臣、ありがとうございました。

<「エネルギー・環境の選択肢」の 3 つのシナリオ説明>

◎司会者

それでは、エネルギー・環境の選択肢 3 つのシナリオについて、清水内閣審議官より、ご紹介申し上げます。皆様、お手元の資料と併せてお聞きください。それでは、よろしく願いいたします。

◎清水内閣審議官

ご紹介にあずかりました国家戦略室の内閣審議官の清水と申します。よろしく願いいたします。本日は、エネルギー・環境に関する選択肢について、ご説明したいと思います。前のスクリーンにも映しておりますけれども、同じものを皆様に資料として配布しておりますので、お手元でご参照ください。

表紙をめくっていただいて、1 ページ目です。震災前、我が国は原子力を基幹電源とするエネルギー選択を行いました。原発は地球温暖化問題の解決に役立ち、かつ純国産電源であるという認識で、原発の比率を 2010 年 26%あるのを、2030 年には 45%まで引き上げるという選択を行ったわけであります。

しかし、昨年 3 月 11 日の東日本大震災と東京電力福島原発の事故を受け、この方針を白紙から見直すことにいたしました。昨年 7 月に政府のエネルギー・環境会議では、原発依存度を可能な限り減らすという基本的な理念を決定いたしました。この方向性は共有されつつあるといえますが、どの程度時間をかけて減らしていくのか、どのようなエネルギー源で補っていくのか、どの程度のコストをかけていくのかなど、意見が分かれる点が多かったと思っております。

次の 2 ページにまいります。今回、政府が提示する新しいエネルギー選択の方向性は、表題にあるとおり「原発からグリーンへ」となります。左の図にありますように、原発依存度を減らし、化石燃料依存度を減らしていくとなれば、これからの軸は再生可能エネルギー、そして省エネルギーであります。どのようなエネルギー選択を行うにしても、第 1 に、グリーンエネルギーへの転換で成長を加速する。第 2 に、需要家がエネルギーを主体的に選択するシステムをつくっていく。そして、これらを多面的な国際貢献につなげていくことが必要になってくると認識しております。

3 ページ目に移ります。「原発からグリーンへ」という大きな方向性の下、エネルギー選択を行うにあたりましては、第 1 に、原子力の安全確保と将来リスクの低減。第 2 に、エネルギー安全保障の強化。第 3 に、地球温暖化問題解決への貢献。第 4 に、コストの抑制、空洞化防止、という 4 つの視点が重要になります。こうした 4 つの視点を踏まえ、今回原発低減の度合いや、再生可能エネルギーの拡大の度合い、エネルギー転換のスピードが異なる 0、15、20～25 という 3 つのシナリオを用意いたしました。

4 ページのグラフをご覧ください。3 つのシナリオと、2010 年実績、それから右側に現行のエネルギー基本計画を比較しております。電源構成は、赤が火力、緑色が再生可能エネルギー、紫が原子力となっております。一番左側の 2010 年実績は火力が主体でありました。一番右の現行のエネルギー基本計画で 30 年をどうするかという姿は、原子力が主体となっております。これらと比較しまして、真ん中の 3 つのシナリオは、いずれも原子力依存度を減らして緑の再生可能エネルギーの部分を増やしているシナリオになっています。それぞれのシナリオごとに、その程度が違うということがお分かりかと思いません。

5 ページにまいります。これは、3 つシナリオの基本となる原発依存度低減の考え方があります。どのシナリオでも共通事項としまして、徹底した安全対策の強化によってリスクを最小化するなどの措置を講じていきたいと思っております。そのうえで、ゼロシナリオは 2030 年までのなるべく早期に原発比率をゼロとするシナリオです。15 シナリオは、2030 年に原発依存度を 15%程度とします。これは、現存する全ての原発に新しい安全規制の 40 年運転制限制度を、自然体で運用した場合の数字にほぼ相当いたします。原発の新增設が難しい状況にあるという実情を踏まえたものであります。20～25 シナリオは、緩やかに原発依存度を低減しながら、一定程度維持するシナリオです。原発の新設・更新が必要となりますので、原子力に対する国民の強固な信任が前提となります。

核燃料サイクル政策は、ゼロシナリオの場合は直接処分。15、あるいは 20～25 シナリオの場合は、再処理、直接処分もあり得るということでもあります。

6 ページ以降、ゼロシナリオ、15 シナリオ、20～25 シナリオを個別に説明しております。それぞれ、電気代上昇などの経済影響などの細かい数字も出ておりますので、後ほどよくご覧いただければと思います。

まず 6 ページ目のゼロシナリオであります。これは、2030 年までのなるべく早期に原発

比率をゼロにするシナリオです。原発をゼロとするために、より大きな再生可能エネルギーや省エネルギーの対策を行うことが必要となってきます。再生可能エネルギーの比率は他のシナリオよりも高い 35%とし、経済負担が重くなっても、省エネを他のシナリオよりも強化します。これにより CO2 の排出量、化石燃料の輸入額も他のシナリオと遜色のないレベルまで行きます。しかし一方コスト、あるいは経済への影響は他のシナリオよりも大きい傾向となっております。

7 ページ目が 15 シナリオです。これは原発依存度を着実に下げるシナリオであります。15%という数字は、先ほど説明したとおり 40 年運転制限を自然体で運用した場合の数字であります。再生可能エネルギーの量は、2030 年で 30%といたします。省エネも着実に推進します。CO2 の排出量や化石燃料の輸入額は、ゼロシナリオと同程度であります。コストや経済への影響については、20~25 シナリオに比べ大きく、ゼロシナリオに比べ小さい傾向となります。

8 ページ目で、20~25 シナリオを説明しております。これは、緩やかに原発依存度を低減しながら一定程度を維持するシナリオであり、原発の新設・更新が必要となります。再生可能エネルギーの比率は 2030 年で 25~30%とします。省エネも着実に実施します。このシナリオでは、原発の新設・更新が必要となるため、原子力および原子力行政に対する国民の強固な信任が前提となります。このシナリオでは、他のシナリオよりも CO2 削減、化石燃料輸入額も少ないということですが、他のシナリオよりも経済への影響も小さいという傾向が表れております。

次の 9 ページ~10 ページにかけましては、原発依存度低減と対になるグリーンシフトの具体像について整理しております。まず 9 ページでは、再生可能エネルギーについて整理しております。一番左が、2010 年の現状では、再生可能エネルギーは 10%でありますけれども、真ん中の 15 シナリオ、あるいは 20~25 シナリオでは、これを 30%まで拡大することとしております。これは、太陽光や風力を合わせて現在、原発 1 基分相当であるところを 20 基相当分まで拡大することになります。一番右側のゼロシナリオの場合は、再生可能エネルギーは 35%となります。経済的負担が重くなっても導入を促進するという考え方になっております。

次の 10 ページは、省エネについて説明しております。左側の 2010 年と真ん中の 15 シナリオ、あるいは 20~25 シナリオを比較しますと、設備や機器の入れ替えの際に最新の機器を導入するという考え方で、省エネを行っております。一番右側のゼロシナリオの場合でありますけれども、これは規制により効率の劣る既存の機械や設備などを入れ替える。そういった対応まで必要となってきます。

次、11 ページは、また先ほどのシナリオの電源構成の比較に戻ります。細野大臣からも申し上げましたが、原発を大きく減らせば、再生可能エネルギーや省エネなど、グリーンへのシフトをより早く、より大きくしなければなりません。グリーンへのシフトは誰もが望ましいと考えますが、大きく変えようと思えば、コストも努力も必要となります。

一方、原発を減らす度合いを小さく、またはスピードを遅くする場合には、大前提として国民の原子力に対する強固な信念がなければなりません。それぞれのシナリオでは、原発低減の度合い、再生可能エネルギー拡大の度合いやスピードが異なりますので、よく見比べていただければと思います。

12 ページ。今後の進め方であります。エネルギー・環境会議では、様々な手法を以て、国民的議論を展開しております。この国民的議論につきましては、本日ここで行われています、全国 11 カ所の意見聴取会、それから討論型の世論調査という新しい試みをこの週末 8 月 4 日、5 日に行っています。それから、パブリックコメントを 8 月 12 日まで行い、皆様からのご意見を広くいただきたいと思っております。その上で、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定いたします。そこでは、エネルギー・環境の大きな方向性を定め、エネルギーミックスの大枠、温室効果ガスの国内排出量などを示します。その後も、不断の検証を行うとともに、2030 年を目途にどのシナリオを選択しても、大きな方向性に関する検証を行います。すなわち、国民的議論は大きな方針が決まった後も続きます。

13 ページ目、最後になります。今回のエネルギーと環境の選択は、国民的な課題の選択であり、将来世代に影響を及ぼす選択であり、世界が注目する選択であります。広く国民的議論への参加を期待しております。政府としては、それを礎にして、責任ある選択を行っていきたいと考えております。

なお、本日、資料をご提供いただきましたが、このほかにも様々な資料といたしましては、「話そうエネルギーと環境の未来」という特設のホームページを設けております。この会が始まる前に、スクリーンでもご紹介したと思いますけれども、ぜひこういったサイトにもアクセスしていただき、いろいろな資料がありますので見ていただければと思います。私からの説明は以上です。ありがとうございました。

<意見表明(一般参加者より)>

◎司会者

続きまして、意見表明者の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

本日は意見表明を希望された方の中から、各シナリオごとに希望者の中から抽選で選ばれました。15%シナリオに対する意見表明者 2 名。20～25%シナリオに対する意見表明者 2 名。3 つのシナリオ以外に対する意見表明希望者から 2 名。ゼロ%シナリオに対する意見表明者 6 名の合計 12 名の方に意見表明をお願いいたします。順番はお名前の五十音順とさせていただきます。時間の関係上、お 1 人様 7 分以内をめぐり意見表明をお願いいたします。

また、意見表明の概要について、席上配布にご同意していただいた方につきましては、お手元の配布資料、意見表明者の意見概要一覧に記載させていただきます。なお、意見表明時間のご参考として、係のものが残り時間を表示させていただきますので、

参考にさせていただければと思います。

では、お手元のマイクをご使用いただき、できましたら、お名前とお住まい、またご職業など、差し支えない程度で結構でございますのでお話しいただきましたうえで、意見表明をお願いいたします。

それでは、意見番号 1 番の方。1 番の方は 15%シナリオについての意見表明と伺っています。1 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 1

こんにちは。先ほど細野大臣のほうから資料を用意されているのではないかというお話があったのですが、私も A4 版で 10 ページの意見表明の資料を用意させていただきました。

まずは、本日、原爆暦 68 年 8 月 4 日、この大変お暑い中、エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会高松会場にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今、司会の方から、ご紹介あずかりましたように、私は原爆暦 86 年に向けまして、15 シナリオにつきまして、意見を表明させていただきます。また、時間の都合上原稿を読みながらの、しかも若干早口での意見表明になりますことを、大変失礼申し上げます。

私の意見表明は、3 点ございます。まず 1 点目は 15 シナリオについて。2 点目ですけれども、この会、パブリックコメントの運営方法について。3 点目は、15 シナリオを踏まえた原子力発電に関しての、私の率直な意見であります。2 点目の運営方法につきましては、私の意見表明とは関係がないので、約 7 分間の時間から控除していただきますよう事務局の方、よろしくお願いいたします。

まず、私は 15 シナリオを選択していることから、私の意見表明中につきましては、会場の皆様からの意見表明、俗にいうところのやじでございますけれども、これにつきましては、大いに歓迎したい。このように思っております。よって、会場の皆様方の声が、動画等で、この中継を見られている主権者たる日本国民、そして世界中の皆様聞こえますように、マイクを会場の方のほうに向けさせていただきます。

まず、1 点目でございます。お手元の資料でございますように、現状を維持した場合と、15 シナリオで、どのように我が国の経済状況は変化するか。主として、日経平均株価下落等の関連について申し上げます。我が国における代表的な株価指数といたしましては、東証株価指数(TOPIX)と、日経平均株価がございます。全体的な指標といたしましては、東証株価指数(TOPIX)の方が、より市場を正確に反映しているところではございますけれども、一般投資家におきましては、日経平均の方がより身近なことから、日経平均との関連について述べさせていただきます。

まず、日経平均は何であるかということでございますけれども、これは、東京証券取引所第 1 部上場企業の中から代表的な 225 銘柄を選び出し、その平均株価を指数の連続性を考え、修正を加えた上で算出したものであります。日経 225 におきまして、電力

会社では東京電力、中部電力、関西電力の 3 銘柄が選出されております。

15 シナリオからいたしますと、燃料費の増加が各電力会社の株価に影響することが考えられます。そうしますと、東京、中部、関西電力各社のそれぞれの株価の下落が想定されるのであります。ここでは、非常に極端な例といたしまして、電力 3 社の株価が 1 円、あるいは完全に破綻して無価値になった場合を想定させていただきます。

以下、算出いたしますが、日経 225 は、先ほど触れましたように指標の連続性を重視していることから、算出を簡単にするために分母を 225 といたしまして、株価の下落がそのまま日経 225 の下落になる。つまり、各電力会社の株価の下落額そのものが日経 225 に反映されると仮定して算出させていただきます。電力 3 社は単元株が 100 株であることから、1000 株単位、額面 50 円に換算いたしますと、それぞれ現在の株価の 10 分の 1、これが算出にあたる株価となるのであります。すなわち、東京電力の場合約 15 円、中部電力の場合約 85 円、関西電力の場合約 58 円が基準となり、これらの合計額の約 157 円が日経 225 への寄与度、影響となるのであります。そして、これが 0 円、寄与度がゼロになった場合を想定し、単純に計算いたしました場合、日経 225 は 157 円もの大幅下落をすることになるのであります。

昨日、原爆暦 68 年 8 月 3 日終値段階での日経 225 は 8555 円であることから、電力 3 社の株価が無価値になった場合、これから 157 円下落することになり、日経 225 は 8398 円に大幅下落をするのであります。

もちろん他の要因、例えば、経営破綻により社債がデフォルトになる、債務不履行になることも考慮する必要は御座います。しかしながら、今から約 10 年前の原爆暦 57 年に、米国大手エネルギー企業で電力も取り扱っていたエンロンの破綻における MMF 等のファンドの元本割れ等を鑑みると、その影響は限定的と考えられます。結論を申し上げますと、原発のない沖縄電力を除き、電力会社が全て経営破綻し、株式、社債等が無価値になっても、我が国における経済的影響は局所的、限定的であると言えます。

以上が 15 シナリオに対しての 1 点目の結論であります。

次に 2 点目に移らせていただきます。まずパブリックコメントでございますけれども、八ッ場ダムのパブリックコメント同様、全ての意見を PDF ファイル等で、インターネットで誰もが閲覧できるような方式を採ることを、事務局に要求させていただきます。これは、今年の八ッ場ダムのパブリックコメントに私が意見表明したものでございます。こちらをご覧くださいましたら分かりますように、私の名前とか、住所が黒塗りになっています。その上で、意見内容は全て誰もが閲覧できる。今でも閲覧できるような状況になっています。こういった形で、パブリックコメントの公開をしていただくようお願いしたいと思います。

そして、報道機関の方、インターネット動画での撮影の方、大変お手数ではございますけれども、会場全体が映りますように、カメラをいったん後ろの方に引いていただけますようお願い申し上げます。

それでは、会場にいらっしゃる皆様にお諮りいたします。パブリックコメントの公表方法で

すけれども、個別の公表はせずに、3つまたは4つのシナリオ、どのシナリオにどれだけの意見があったかの程度の公表でよいとお考えの方、大変お手数ではございますけれども、挙手をお願いいたします。挙手はございませんか。恐れ入ります。ありがとうございます。それでは、先ほど、私が述べましたように、こういった形で、全てのパブリックコメント、全ての意見をインターネット上を含めまして公開する。こういったことがいいというお考えの方、お手数ですけれども、挙手のほうお願いできますか。はい。先ほどはゼロでしたけれども、今度は何名もいらっしやいます。ということで、事務局の方、ぜひ公開していただくよう、よろしくをお願いいたします。

次に移らせていただきます。そもそも本聴取会において、会場の参加者から、意見表明者に対するの質問の機会がない。つまり、意見表明者からの一方通行であることに対しては、はなはだ異常な聴取会であると、私は考えております。意見表明者からの一方通行ではなく、会場の参加者の皆様と相互に意見交換することができることが望ましい方法と思います。しかし、今日この場で実施した場合におきましては、想定されていた終了時刻を大幅に上回ることが予想されます。そこで、皆様にお諮りいたします。会場の終了時間も加味したうえで、今、採用されている意見表明者から会場の参加の方々への一方通行が望ましいとお考えの方、挙手をお願いいたします。

◎司会者

お話の途中ではございますが、予定時間を経過いたしております。そろそろご意見をおまとめいただけますようお願いいたします。

◎意見表明者 1

挙手 1 名だけです。それでは、今日この場でお聞きした場合、終了時間が遅くなりませんが、今日も含め今後意見表明者が一方通行で述べるのではなく、会場の方々からの意見を伺い、意見交換ができる双方向型の聴取会が望ましいとお考えの方で、かつ今日この場から双方向型の実施を求めていく案に賛成の方、挙手をお願いします。何名かいらっしやいますね。事務局の方、何名かいらっしやいますので、このことも含めて……。

◎司会者

恐れ入ります。予定時間を経過いたしておりますので、そろそろご意見をおまとめください。

意見表明中ですので、ご静粛に願います。

それでは、この辺りでよろしいでしょうか。

◎意見表明者 1

まとめてですか。

◎司会者

よろしいでしょうか。そろそろおまとめをお願いいたします。ございませんでしょうか。それではお時間もございますので、この辺りで終了とさせていただきます。1 番の方、どうもありがとうございました。

それでは、意見番号 2 番の方。2 番の方はゼロ%シナリオについての意見表明と伺っています。2 番の方、よろしくをお願いいたします。

◎意見表明者 2

はい。高松市在住の B と申します。損害保険会社に勤めています。よろしく申し上げます。2030 年エネルギー・環境ゼロシナリオ選択の立場で意見を述べさせていただきます。

奇しくも来週の 8 月 6 日は広島、8 月 9 日は長崎の原爆記念日を迎えます。67 年前に広島、長崎に原爆が投下され、日本は唯一の被爆国となり、原子力の怖さを思い知りました。その日本が、2011 年 3 月 11 日には 65 年の時を経て福島原子力発電所の恐怖にさらされることになりました。原子力発電で核の平和利用を目的に使用されている放射能もしよせんは放射能であり、万一の場合には人体および自然環境を汚染することを改めて思い知りました。

私は、今回の 2030 年エネルギー・環境の選択は利便性と安全性の選択ではないかと思っています。原発に限らず全ての物事にはメリットもあれば、デメリットもあります。しかし、今回の選択は利便性のために犠牲にする安全性は大き過ぎると思います。なぜなら、3.11 の福島第 1 原発事故は稼働中の原子力発電所を津波が襲ったために発生しましたが、原子力発電所を稼働し続ける限り、核のごみが発生していることも忘れてはなりません。私がゼロシナリオを選択するのは、そのためです。

私も原子力の専門家ではないので、独自に核燃料について調べました。それによりますと、使用済み核燃料として原子炉から取り出した直後の燃料棒の放射能は、使用前に比べて 1 億倍になるとのことです。そして、通常、使用済み核燃料は廃棄処理として地中に埋める地層処理を行うか、再利用するため再処理をしてリサイクル利用するかを選択します。再処理を選択した場合のウラン、プルトニウムのうち、高レベル放射能廃棄物は、ガラス固化体として 30 年から 50 年空気冷却された後、最終的には地層処理となります。

いずれにしても、使用済みの核燃料は地層処理されます。そしてガラス固化体は使用前の燃料棒と同程度になるには、少なくとも 100 万年はかかると言われています。つまり、原子力発電所を稼働し続ける限り、使用済み燃料として核のごみが発生し、地層処理として地中に埋め続けるのです。このままでは核のごみを埋め続けた大地を、我々は未来に残さなければならなくなります。

このような大事なことを何も知らせずに、原発を再稼働しなければ電力が不足すると言わなければ、原発の再稼働も仕方がないと判断すると思います。政府はもっと透明性を持たせて、原発や使用済み燃料の危険性を国民に知らした上でエネルギー・環境を選択させるべきだと思います。未来に負の遺産を残してまで電力の利便性を誰が選択するでしょうか。自分たちでコントロールも最終処理もできないものまで使って利便性を求めるものがあるのでしょうか。

野田総理は、「自分の責任で原子力発電所を再稼働させる」と発言されましたが、100 万年先に負の遺産を残すことへの責任を取れるのでしょうか。一国の首相として言葉が軽過ぎると思います。原発再稼働の前に、まずは福島放射能で苦しむ方たちを救ってあげてください。

政府や電力会社は、原子力発電所を稼働させなければ電力が不足するとわれわれを脅しますが、我々日本国民は、我慢をすることを知っています。仲間のために痛みを分かち合えます。そのことは、2008 年 9 月のリーマンショックの後に、ワークシェアリング等でリストラを回避したことで実証済みです。

政府はお金が足らなければ増税する、赤字国債を発行する、消費税を増税すると言ってきます。現状の状況で努力することなく、足りないからくださいというのは、子どもが親に言う言葉であり、本当に幼稚な発想です。原発再稼働の背景には、日本政府のこの幼稚な発想が根底にあり、我々国民も同じだと思っているのではないのでしょうか。もしそうであるならば、国民をばかにしていると思えません。

日本国民は優秀で知恵があります。原発をゼロにするための代替エネルギーの開発も進んでいます。今は、みんなで多少の不便さは我慢をして、安全な代替エネルギーを待つ時期ではないかと思っています。

どのくらい先かは分かりませんが、われわれの子孫が高濃度が残っているガラス固化体を発掘したら、我々のことをどう思うでしょうか。利便性を求めて、未来に負の遺産を残すような先祖を尊敬できるでしょうか。過ちは誰にでもあり、どの年代でもあると思います。その過ちを認めて修正することが大事だと思います。次世代につけを残さないために消費税を導入するという政府であれば、未来に負の遺産を残さないために原発シナリオを選択すべきだと思います。それが、唯一の被爆国として日本国民が世界に発するメッセージだと思います。

最後になりますが、政府が意図する方向に世論を誘導するために、大切な情報を使えなかったり、誤った判断をさせるような情報を与えたり。つまりは、政府にとって都合のよい情報しか流さないといった情報操作をするのではなく、全ての情報をオープンにして、透明性を持たせた上で、我々が向かうべき道を正しく選択できるようにしてほしいと思います。

我々のこの声を音としてではなく、声として届くことを切望して、私の意見とさせていただきます。ありがとうございます。

◎司会者

2 番の方、ありがとうございました。

それでは意見番号 3 番の方。3 番の方は 3 つのシナリオ以外についての意見表明と伺っています。3 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 3

香川県の観音寺市からまいりました C と申します。実は、私は 29 日まで留守にしております、30 日に帰りまして、これは『朝日新聞』の 7 月 30 日の記事で、今日の催し物の詳しいことが書かれておりましたので、私はインターネットとか携帯を持ちませんので、ファクスを入れて申し込みましたら、1 日のお昼に当選いたしましたというお知らせを受けました。今、細野大臣は、皆さん準備をずいぶんされてきておられると言われましたけれども、半日しか意見をまとめる時間がありませんで、今まで私が考えてきたことを、そのまま率直に申し上げたいと思います。

3 つのシナリオ以外というところに、100 字ぐらいの意見を欲しいと言われてまして、2 時間ぐらい考えてお送りしたのがそのまま載っております。今、2 番の方がお話しなされたことにかかなり重複しております。それで、その部分は省いて、私の記憶と申しますか、私は 1940 年に生まれました。ですから、8 月で間もなく 72 歳になるのですけれど、人生の最終コーナーに入った者の意見として聞いていただきたいと思います。

私は、自分の生まれた家と、結婚して作った家庭しか世間というものを知らなくて、社会に出たことがないものですから、組織の論理とか、そういうものは分かりません。ですけど、生活者の実感のようなものをちょっとお話ししたいんです。それで、時間が上手く配分できなくて、途中になるかも分かりませんが、申し上げたいことは、この 5 項目に尽きます。それで、途中になって変なことになるかも分かりませんが、お許しください。

廃炉にするっていうことを、私はゼロというのがよく分からなくて、3 つのシナリオ以外というのを選んだのですけれど、私の記憶で、核というものが頭に入ったのは中学生の時に、第五福竜丸、久保山愛吉さん、それで焼津という地名も知りましたし、ビキニ環礁というものも覚えました。

高校生の時に、校長先生が「東海村に原子の火がともった」ということをおっしゃいました。でも、それがどういう意味か、私には科学はあまり得意ではなかったものですから、よく分かりませんでした。皆さんがいろいろ書かれているものを読みますと、未来に向かって日本が再生していく希望の火のように捉えられていたというふうに書かれているものを読んだこともあります。

それ以後も、間もなく原子力発電所ができて、私の子どもたちは今 3 人東京におりますが、一番上の子が東京に出ますときに、私は「直下型地震もある。東海村もある。何が

あるかも分からない。それでもいいか」と申しましたら、「構わない」と言っていました。それで今回こういうことになりまして、本当にそういうことが起こったというのが、なんと云いますか、驚きよりも言いようがなかったです。

福島の子供のことなのですけれど、4月にこちらから行ってお会いしたのです。とにかく去年の夏の国会、本当にみんな怒って、あきれて、そのうちもう失望したと申します。みんなが力を合わせて国を復興してほしい時に、一体何をしているんだらうと。そして、自分たちのことは自分たちで判断して、皆さんご自分の家の事情、職業とか、年齢とかいろいろありまして、福島で生きることを決められたわけです。

大方の方が、福島市と伊達市にいらっしゃるのです。隣が飯舘村。あそこは本当に皆さんが気の毒だと申しております。先ほどの方が言われたように、情報がものすごく遅れて、本当に若い人たちが頑張って素晴らしい農村が出来上がっていたものが全部駄目になって、本当に気の毒だと申しております。

ですから、そういう現実が、向こうから見ますと、東京ではもう遠いところのよそごとになってしまっているのではないかって、今の福島に対する政治について申されております。ただ、時々来るのは細野さんだけと。他の方々のお姿は見たことがないと言っておられます。

もう時間がたぶんないと思うのですけれど、電気料金の値上げとか、電力不足とか、稼働しなければいけない理由をたくさん申されますけれど、次は伊方じゃないかという意見があつて、それが有力に既成事実のようにになっているのではないかと思うのです。この間、稼働して2、3日目に、オール電化にしませんかという電話がかかってきました。2、3割電気代が安くなりますと。それは、業界の方では、もう既成事実として流れているのではないかと。さっきの方も言われましたが、私たち国民には信じられないことがたくさんあります。

ですから、国が本当に節電して、なるべく原発に頼らない社会をつくるとおっしゃるのだったら、本気でやってほしいと思うのです。5月の末に、まんのうの国営公園へ私は初めてまいりましたのですけれど、トイレへ行ったら、便座に熱々と電気が通っているんです。なんということだろう。あれは国営公園で、そういうふうに電力を使って、電力不足だという証拠を作っているのではないかと考えました。

ちょっと書いてきましたんですけれども、もう言われたことは重複しますので。

この会は電通に企画を委託されたそうですけれど、どれぐらいの予算でそういうことをされたのか。また、私たちがアリバイ作りに使われるのではないか。そういう報道もたくさんあつて。

おとといのお昼に電話をいただいて、私は、家からここまでまいりますのに2時間かかります。7分間いただけるということで、私たち主婦の考え方は同じような考えを皆さん持っております。ですから、ぜひ、そういう安易な使い方をしてほしくない。

それからもう1つは、この間、中部電力の方が、1人も放射能では直接死んでいないと

おっしゃいました。だけど、どれだけの人が苦しんでいるかを、あの方は想像力が全く欠如しているのだと思います。今、東京ではものすごく野菜が安いのだそうです。それは、関東一円のもので、たぶん風評被害で買ったたかかっているのではないかと思うのです。

◎司会者

お話の途中ではございますが、予定時間を経過しております。そろそろおまとめをお願いいたします。

◎意見表明者 3

福島ではものすごく安いそうです。ぜひ、そういうことを、垣根を越えてほかの大臣にもおっしゃっていただきたいと思います。

失礼いたしました。

◎司会者

3 番の方、どうもありがとうございました。

それでは、意見番号 4 番の方。4 番の方は、20～25%シナリオについての意見表明と伺っています。4 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 4

失礼いたします。私は、隣の県の鳴門からまいりました。職業は農業をしております。農業をしながら、先ほど隣の方の意見で、農作物が買ったたかれるというのはちょっと身を切る思いでございます。

私は、20～25 とした理由につきましては、農業とは関係ないのですが、日本の国全体で考えていただいたら、日本の貿易収支が先般発表されましたが、かなりの赤字が出ております。貿易収支の赤字が出ればどうなるかということは、皆さん、私よりご存じのとおりで割愛させていただきます。そのために、化石燃料をどうしても使わざるを得ない。日本のエネルギーはどうしても電力。これも輸入するわけにはいきませんので、化石燃料を使うというのは、必然的に貿易収支に響いてきます。

その次に、貿易不均衡が起きてきますと、今以上の国内産業の空洞化を、私は少し心配しております。現在、製造現場では、エネルギーである化石燃料、並びに電気は必要不可欠で、それがなければ日本の産業は成り立たない。貧乏してもええやないかという意見もあろうかと思いますが、今、ここまで日本が成長しますと、私が育った時代、昭和 20 年代には家庭の中には裸電球 1 つです。皆さん、今それで辛抱できますか。

◎会場

できます。

◎意見表明者 4

できる人は結構です。それ、してください。

それで、私、はっきり言うて家の中にエアコンもあります。私の育った時代は豆炭いっちょ。その豆炭すら買えない時代がありました。それが、今、たちまちここまで裕福になりました。それは、ある意味犠牲を伴った豊かさだったと思います。その犠牲が、今たちまちこういう形で表れたのかなと考えてもおります。

ただ、今、大臣が言ったように、最終的にはゼロに向かって進んでいこうじゃないか。それが決まっておれば、今、たちまち即ゼロというのは少し暴論かなという感じが、私一人としております。

それと、私は、1970年代の安保闘争の時代、少し元気が良かったのですが、その時代、参加しなかったら何かおかしいという感じ。あいつは変わり者やという感じ。いわゆるノンポリは本当に身の狭い思いでした。ですから、意味も分からずに参加という部分もありました。

ですから、皆さん、確かに私はゼロもいいと思います。反対ではありません。でも冷静に考えてください。日本の経済を立ち止まらせてしまったら、ギリシャの二の舞どころじゃないと思います。今たちまち 1000 兆円という赤字をどのようにしてクリアするかということで、国も考えてはくれていると思います。それプラスアルファに、なおかつ日本の産業が空洞化すれば、これは、おのずから日本が、映画ではないですけど変なかたちの沈没になろうかと思えます。それは、私は不安に感じます。

確かに今、原子力というのは、非常に私たちにとっても見えないし、扱いづらいものです。それをどのように今後科学の力でクリアできるか。これは私は分かりません。素人です。分かりません。それで今の原子力の専門家ですら分からないと思えます。専門家ですら分からないものを、私らがやいのやいの言うても始まりません。ですから、100 万年後にどうのこうの、100 万年後に誰が生きとるんなど言うたら、誰も生きとりませんよね。ですけど、その 100 万年後には、それが新たな資源となる可能性もあるかも分かりません。

ですから、私たちが思うのは、EU みたいに電力を簡単に輸入できるのであれば、これは非常に便利なことです。でも、私も EU の電力の輸入というのは非常に身勝手やなど。自分のところでは原発は作らない。ところが、原発で発電した電気を買いますよと。そして、原発をうちは作りません。皆さん、これ、いかがですか。手前勝手ですよ。我が家から出したごみは隣に持っていくけど、隣のごみは絶対にうちとこへ持ってきたら駄目っていうような意見的な部分があるので、やはり自分たちでもっと、皆さんとともに、感情的になろうかと思えますけれどももう少し冷静になって、知恵を出して、そして日本の国を未来に明るい子孫のために送っていきたい。結局、負の遺産だけ残すのでなくて、未来にわたって、「先輩たちが苦労したけどいいものを残してくれた」と言われるような形にしていきたいな。

ですから、少なくとも、今もう少し冷静に、感情的にならずに、もっと少し冷静に考えてみてはいかがでしょうか。これが私の考えです。どうもありがとうございます。

◎司会者

4 番の方、ありがとうございました。

それでは、意見番号 5 番の方。5 番の方は、20～25%シナリオについての意見表明と伺っています。5 番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 5

徳島市から来ました E と申します。職業は柔道整復師です。出身は福岡市で、高校卒業までは福岡に住んでいましたので、九州管内の玄海原子力発電所、川内原子力発電所は見学したことがあり、そのときは原発は安全だと信じていました。

学生時代は 3 年間で宮城県仙台市で過ごしたので、東北にも友人知人も多く、避難区域に住む友人もいますが、まだ連絡が取れていません。3.11 の東日本大震災、福島第一原子力発電所事故直後は、自分も脱原発を考えていましたが、冷静に日本経済、世界の中の日本の立場、普段の生活など諸々を考えますと、今回は 20～25%のシナリオを支持して、意見を述べさせていただきます。専門知識もありませんし、原発やエネルギーなどについて特に勉強もしていませんので、普通の国民の一意見として聞いてください。

自分は、福島第一原子力発電所の事故は、震災ではなく人災だと思っています。責任は東京電力と、国策として推進してきた日本政府にあると思います。なぜなら、福島第一原子力発電所は、津波の被害によりこのような事故を起こしました。それに比べ、東北電力管内の女川原子力発電所は、震災による多少の被害はあったものの津波の被害からは免れました。これは、東京電力と政府の認識の甘さから起こった事故だと思います。このことから、津波対策をしっかりとやれば、原子力発電所の地震に対しての耐震性はあり、ある程度の安全は確保されると思います。

また、この経済不況の中、直ちに脱原発に向かい、節電や電気代の値上げを強いられると、大企業はますますコストの安い海外に進出し、その結果、国内の雇用は減り、今まで以上に国内の景気が悪化する恐れがあります。自家発電の導入や、海外進出できる大企業はまだいいですが、一番打撃を受けるのは零細企業や小売業者の事業主さんです。消費税増税に、電気代の値上げなどのダブルパンチで立ち行かなくなり、廃業に追い込まれる事業主さんが続出し、日本国内の疲弊につながりかねません。

このことから、電力の安定供給とコスト維持のために、現在の原発依存率を保っていくべきだと考えます。ただ、このことは、日本政府と、各電力会社と、国民との信頼関係が保たれて言えるべきことです。政府は、政財界や大企業にではなく、国民に目を向け、速やかに正確な情報を公開するように努めていただきたいと思います。各電力会社も、

今までのような政府や大株主のほうを向いた経営ではなく、一般家庭ユーザーに目を向けた体質改善に努力していただきたいと思います。また、政府と電力会社には、原発に代わる安全なエネルギーの研究開発にも力を注いでいただき、原発と変わらない低コストのエネルギーが開発された時に、原発ゼロに向かったらいいと思います。

少しそれるかもしれませんが、初めに日本政府と東京電力の責任と言いましたが、一部の有識者がこれまでに原発の危険性を唱えてきましたが、原発は安全という政府と電力会社の言葉をうのみにして、電気の安定供給と低コストの恩恵を受けて目をつぶってきた我々日本国民にも、責任の一端があると思います。これから我々国民も、もっと政府や電力会社の行動に目を光らせ見守っていくべきです。

インターネットの普及とともに、顔が見えないことをいいことに好き勝手発言したり、選挙にも行かず、権利ばかり主張する人もいますが、我々国民も、発言や行動には責任と義務が生じることを肝に銘じておくべきだと思います。

これが昨日まで考えてきた自分の原稿なのですが、もう少し時間があるみたいなので、ちょっと追加させていただきます。

ここに今日、切り抜きを持ってきたのです。これは皆さんも分かっていると思いますが、これは今朝の徳島の地方紙に連載されたものです。経済産業省のエネルギー課長が、原子力委員に対して、文書で圧力をかけたと書かれています。自分が思うのですが、脱原発がクローズアップされ、マスコミの影響もあり、世論が今、脱原発の方向に向かっていていると思います。ただ、自分が仕事をしながら感じることは、自分の周りには現状維持の考えの方がたくさんおられます。その人たちは、自分と同年代から、40代～60代、70代の上の人が多いのです。その人たちは、インターネットなどが得意じゃなく、結構消極的な人が多いんです。自分はそういう人らもたくさんいるということを知ってみたいくて、今回応募しました。こうして意見を言わせてもらえたのですが、こういう記事が出て、すごく残念に思います。

最後に一言言いたいのですが、官僚の方は日本のエリートですので、マスコミの報道などに左右されずに、広く深く国民の意見を拾っていただきたいと思います。これで自分の発言は終了させていただきます。ありがとうございました。

◎司会者

5番の方、ありがとうございました。

それでは、意見番号6番の方。6番の方は、15%シナリオについての意見表明と伺っています。6番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者6

はい。Fといます。高松市に住んでいます。7月までは勤めをしていましたが、今は主夫で子育てをしています。

まず、今日はこの会場を使って意見を述べられるということ、非常に私は大切に意味のあることだというふうに受け止めています。大体、この会場はどのぐらいの費用で押さえられているのか。土曜日の午後にこれだけの人が来て、これを聞いてくださっているのかということを見ると、この意見表明は非常に大事なものと私は受け止めて、貴重な時間をいただいて感謝しております。

続いて、福島原発の事故、そして今、避難したり、被ばくを続けている作業員の方、少し私がいろいろ読んだら、ウランを採掘するのに鉱山で働いている人たちもいるのですが、そういう人たちは常に被ばくしているそうです。こういう方々に、これから申し上げる 15 シナリオを意見表明することに対しては、非常に私は心苦しいといえますか、率直にまずはおわび申し上げてから、意見表明を行いたいと思います。申し訳ありません。

では、本題に入ります。なぜ 15 シナリオなのかということなのですが、1994 年 8 月が、今から 18 年前になるのでしょうか、この時、香川県がどういう状況だったか覚えている方はいらっしゃいますか。私は大学生になったばかりなので非常によく覚えているのですが、渇水だったんです。水不足に悩みながら、こういうことも起こるんだと思いながら過ごしていました。この 1994 年から今 18 年たつんですね。今回のシナリオは、実は同じ年月を 2030 年で思い起こしてくれというお話だったように思います。

はっきり言って、ここにいる誰もそのことを正確に予測することは、たぶん無理なんだろうと思います。正確に予想できないから、じゃあ 2030 年の時点ではどういうものになっているのかという私の一番近い考えがこの 15 シナリオだったので、意見を表明します。

現状では、原発への依存度、四国はこの事故が起きる前は 4 割が伊方の発電所に依存していたんだと思います。私も十分に使わせていただいておりました。この依存度を低く減らす。低減しつつ、代替エネルギー、代替りのエネルギーの開発を推進することが、現実的な案であると思っています。

20 年後に生きる、約 20 年後私も恐らくたぶん生きていると思うし、私の子や、もしかしたら孫もいるかもしれませんが、孫への責任あるメッセージがこの 15 シナリオだと思って、今日ここにまいっております。

私を含めて多くの方が、明日から原発のない社会に暮らしたいと考えていると思います。私自身もずっとそういうふうに使っています。しかし、将来こうあるべきだと、長い時間をかけてこうあるべきだという社会の姿と、今向き合わなければいけない現実の諸問題については、分けて考えて進めていくべきだと、最終的には融和させていくべきではないかと思っています。

将来目指すべき社会の姿として、2030 年以降のお話として、原発の依存度をゼロにする試みは続けるべきだと思いますが、原発事故の検証とか、安全への取組、そして被害者への賠償ということはいかに進めていかなければいけないことだと思います。これにはお金がかかります。そして、それを達成するまでの年月をいかに生きるのか。安全に生きるのかということも、同時に問われていると思います。

これまでに多大な費用と労力をかけて築いた社会の仕組みを、長いといえば長いかもしれませんが、18年という、私は短い期間でと思いますが、価値のないものにするのは、できるだけ避けるべきだと思います。苦しいことですが、そういうふうに思います。似たようなものは、公共施設として、ガスや、水道、電話、公共施設、放送や、社会保障、交通機関、こうしたものも同じような問題をはらんでいると私は思います。

こうした社会生活に欠かせない仕組みは、それが成立して、成熟した過程と同じ程度の、作ってきた過程と同じ程度の時間を費やし、私たちが一生懸命考えながら変えていく努力をしていくことが求められると思います。それが、私の考える民主主義だと思っています。時間がかかる試みで、私はこのシナリオを支持するということは大変心苦しく、やはりゼロと本来は言いたいのですが、2030年時点はこの15シナリオが現実的というふうに思い、主張をさせていただきました。

以上で私の発言は終わります。ありがとうございました。

◎司会者

6番の方、ありがとうございました。

それでは意見番号7番の方。7番の方は3つのシナリオ以外についての意見表明と伺っております。それでは7番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者7

皆さんこんにちは、私は高松から来ました、Gと申します。私はたぶん今日、たぶん一番勇気を必要とする意見を陳述しなければならいと思います。というのは、上限を設けずに多岐多様なエネルギーを確保することが、いろいろな意味で必要だというふうに考えているからです。

震災復興と言いますが、その復興にはやっぱりお金がかかります。そのためには産業が大事です。その産業を守るためには電気が大事です。それを無視して果たしているのでしょうか。それで本当に将来の子どもたちのことを考えていると言えるのでしょうか。エネルギー問題は国の根幹の1つでもあり、食糧問題や防衛問題と同等に語られるべきもので、実は複雑で専門的な問題です。決していたずらに不安感や恐怖感にあおられた感情論に流れてはならないのです。

そこで本日3つの提言を用意してきたのですが、一番不安に思うのは、政府が提出された再生可能エネルギー導入の、その実現性への不安なのです。

今回示された3つのシナリオの中に、再生可能エネルギーの比率が25%~35%という数字がありますが、この数字をどのような根拠に基づいて出されたのか、僕はちょっと疑問に思うのです。というのは、自然エネルギーを25%、35%とありますけれども、実効発電率ができませんよね。今1%たぶんないと思うのです。それを20倍、30倍に増やすと思ったら、すごい設備投資が要りますよ。それが果たして可能なのかなと、すごい疑

問に思いました。

そして、単純に考えて再生可能エネルギー買取制度によって、それだけ売電量が増えるならば、電気代は一体何割上がるのかと。長い将来にわたって我々非力な受給者が負担する数字が極めて曖昧、中途半端です。民間のデータバンクみたいなのところがあるいろいろな資料を出していますけれども、一説によれば、5年後には一月に500円値上がりする。さらにその10年、15年、20年たてばどんどんどんどん、再生可能エネルギーが増える分だけ我々の電気代に跳ね返ってくる額が増えてきます。それは、一説によればもしかしたら今の倍になるかもしれないという試算があるんです。東電が今、8%ちよつと値上げするというだけで大騒ぎになっているのに、これは一体どうなるのかなと、その現実的な不安があります。

そして、前総理が1000万戸の家庭の屋根に太陽パネルを設置しようという提案をしました。だけど、その1000万戸、果たしてそれだけの数ができるのでしょうか。まず財力が一番問題なんですよ。財力とか、場所とかね。豊かな財力のある人の電気代を補うのは、われわれ貧乏人なんですよ。これはちょっと逆進性と言ってもいいんじゃないですか。既に欧州では、幾つかの国、スペイン、イタリア、ドイツで固定価格買取制度が見直されています。それが見直されたが故に、投資を行ってペイできない企業が倒産しています。それは日本の未来の姿なんですよ。もし原子力をゼロにした場合。

現行の買取価格も42円から下げざるを得ないような状況になったとしたら、果たして日本の企業が今の太陽光発電や何かに参画するのでしょうか。この点に関して、僕は深い疑問も抱かざるを得ないと思います。

それと、国民の生活や経済への影響はということなのですが、先ほども申しましたが、「再生可能エネルギー買取法」は、相当な電気料金値上げにつながる仕組みになっています。多少のことは我慢しますよという人もたくさんいらっしゃるかもしれませんが、しかし、果たして本当に我慢できる数字となるのでしょうか。子どものことも、家族のことも、おじいちゃん、おばあちゃんのこともあります。自分だけがいいのならそれでもいいのです。

そして、できればそのことを詳しく現実的な数字として国民にオープンにされて、そのことに関する世論調査をしてもらったらどうなのかなと思います。少なくとも産業の衰退は間違いなく来るでしょうね。すると、海外との競争力を維持するために企業はどのような手段を取るでしょう。海外に流出して、国内の雇用が失われ、生活基盤が崩壊する可能性だって大きくあります。

ところで、産業の隆盛なくして震災復興はあるのでしょうか。子どもたちの将来はあるのでしょうか。こういう経済リスクを想定していないのは、それこそ本当に無責任ではないでしょうか。そして、我々が買わされる商品は、競争相手となる隣の国かもしれません。それは日本の企業が流出して作った製品です。それを買わされるということは何か変な構造になっていませんか。だから、豊かな人の電気料を我々貧乏人が負担するというのと同じ

ような構造なんですよ。

もう 1 つ用意していたんですけど、ちょっと時間がないようなので、皆さんに迷惑を掛けたら悪いので、次の人に譲ります。どうもありがとうございました。

◎司会者

7 番の方、ありがとうございました。

それでは、意見番号 8 番の方。8 番の方は 0%シナリオについての意見表明と伺っております。8 番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 8

観音寺市から来ました、H と申します。職業は風呂屋をやっております。私の概略のほうにも書きましたが、0%を選んでいますが、即時ゼロを求めたいと思っております。

それでは 1 番目、3.11 福島事故後の思いから、お話しさせていただきます。福島で原発事故が起きました。それまでの私は、原発に対して漠然とした不安しか持っていませんでした。大変なことが起こったんだから、政府は国民の安全を第一に避難や生活保障を最優先に取り組み、原子力に関する全てのこと、電力政策も含めて大きく見直されるだろう。私も、この段階では、今ある原発も安全性が比較的高く、必要な数の原発は運転しながら 5 年、10 年をかけてゼロを目指していけばいいなと思っていました。

しかし、東電、政府の放射能被ばく情報の出し方のまずさから、大勢の人々が無用の大量被ばくをしました。自分たちに不利な情報をコントロールして隠していたことが分かってきました。

そこで、新聞テレビだけではいけないと、Twitter などから情報を得るようにしました。ここでは、目の前の霧が晴れ渡るように新鮮で清濁混合の情報があふれかえっていました。フリーの記者さん、上杉隆さん、岩上安身さん、田中龍作さん、そして亡くなられた日隅さんが、情報隠蔽に走る東電、政府から独自に収集した情報を発信していました。世界の見え方が激変しました。

2 番。政府の対応への不信。福島などから大規模な避難も始まらず、避難区域は 10 キロ、20 キロと小出しに広がるだけで、福島や郡山市の人口密集地が含まれないように避けていると感じました。子どもたちには学校集団疎開するだろうと思っていましたが、それどころか、4 月にはなんと学校が再開されてしまうではありませんか。ひどい汚染地帯に子どもを取り残すという選択を政府がしたのです。

小佐古敏荘さんの辞任で有名な、子どもへの 20 ミリシーベルト問題がありました。放射能防護のそれまでの基準、一般人には 1 ミリシーベルト／年間をあっさりとして、東電が原発事故を起こした途端に、放射線管理区域 5 ミリシーベルト／年間、18 歳以下立ち入り禁止、飲食禁止。それをはるかに超える危険な場所で大丈夫と言いだしたではありませんか。

巨大な原子力村、政治家、官僚、事業者、研究機関、報道メディアが東電の引き起こした事故を矮小化して放射能被害を隠蔽、賠償額を減額、原子力村の完全復活をたくらんでいるのです。日本人の生存を脅かす巨大な敵が姿を現しました。政府は次々とうそを言いました。

そして、テレビ・新聞も無批判に垂れ流していました。メルトダウンはしていない。放射性物質は拡散していません。半径20キロ圏外の地域は安全です。年間20ミリまで大丈夫です。海産物、農産物、食べても安全です。事故は収束しました。安全な地域には戻っていただく。大飯原発の安全は確認しました。私の責任で再稼働させますなど、国民の心配していることに対して全てがうそでした。

そして、一方で野田総理、当時財務大臣でしたが、いち早く「東電はつぶさない」と言いだしたと伝えられています。消費税増税に熱心な野田さんが、消費税増税の名目にしようとして震災復興予算をわざと遅らせたともうわさされています。ありそうな話です。実際、政治がいち早く取り組んだのが「東電救済法」でした。この7月31日に政府から東電に1兆円が支払われました。

原発事故を起こした東電の責任、経営陣、株主、銀行側を追求しないことになってしまいました。本来なら、原発事故を起こした東電には強制捜査をかけ、裁判を受けるべきものです。そして、企業の責任の取り方とは、資産売却して被害者への100%賠償、それが当たり前です。お金が足りなければ破綻処理です。それがルールです。電気が止まるはずがありません。日本航空の飛行機は今も飛んでいます。

賠償は、一方の責任者である政府が引き継げばいいだけの話です。福島事故を日本再生の機会と捉えるならば、大胆な電力改革につなげる好機なのです。東電を解体売却して、発送電を分離して、複数の発電会社が価格競争する健全な社会をつくれればいいのです。事故収束も国が別会社で対応すれば、費用もはつきりして国民負担も最小にできるのです。

現在もなお、原子力村は政府中枢にはびこり、国民の安全よりも村の存続を第一に優先させています。政府はあらゆる点で国民を欺き、裏向きました。

選択への回答。以上申し上げたように、政府、規制官庁が被害者切り捨て、原発村維持政策を改めない限り原子力を管理する能力は皆無であると断言いたします。選択にあります3つのシナリオでは、30年までにゼロを選び、即時全原発を停止して廃炉、核燃料保管と除染技術を残して原子力からの完全撤退を強く求めるものであります。

そして、原子力機関から原子力村委員を全員追放し、放射線防護の安全基準を予防原則で見直し、年1ミリシーベルト以上の地域には全て避難の権利が与えられるべきと思います。被害者の完全救済を求めます。

規制庁人事についてちょっとお話しさせていただきます。被害賠償において、原子力損害賠償紛争審査会(原賠審)で自主避難者への賠償について協議が行われた際、賠償範囲を狭め、20ミリシーベルト以下の人には補償を打ち切ろうとして、頑強に抵抗した

人がいました。今、国会で規制庁人事委員長に推薦されている田中俊一さんです。一貫して東電の賠償を減額する方向を主張し、被害者切り捨てを進めた張本人であります。規制庁の委員は原子力の裁判官を決めるような重大な人事であります。広く国民に、公聴会などで資質を吟味して、最高裁判事のように国民審査にでもかけるべきものなのです。

国会事故調報告にも、規制庁の独立性が最重要事項として挙げられております。事業者などの利権の影響を排除することが求められているのに、最初から原子力村のまっただ中の人を選ぶとは、規制庁の設置目的を完全に無視した暴挙です。原子力村にかかわった人間を、一度反省を口にしたからという理由だけで、万引常習者に裁判官をやらせるばかりがいますか。

規制庁を有効に機能させるためには、委員を、原子力に明確に反対の行動を取ってきた方にすべきです。小出裕章先生、後藤政志さん、田中三彦さんなどが適任ではないでしょうか。政府提出人事は白紙撤回して、国会事故調の指示に沿ったかたちでのやり直しを求めます。

以上で私の意見を終わります。

◎司会者

8 番の方、ありがとうございました。

それでは意見番号9 番の方。9 番の方は、0%シナリオについての意見表明と伺っております。それでは9 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 9

高松市内からまいりました、一児の母でございます。職業は衣服の縫製、修理を行っております。私は0%の立場ですが、2030年までに0%ということではなく、今すぐに0%にすべきという立場でお話をさせていただきます。

私は、3月11日、福島原発以降、この香川県にいながらでも被災者の方たちに何かできないか、いろいろと考えた末、仲間と一緒に「福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト」というプロジェクトを立ち上げまして、夏休みの短い間だけでも思い切って子どもたちに外で遊んでほしいと思ひまして、五色台で、40名の子どもたちとその家族の受け入れを行いました。

参加者の家族のお母さんからは、子どもが半年ぶりに外で遊べることができました。砂遊びができた。すごく喜んでいました。中には、家族と一緒に来ることができずに、1人で参加した子どももおりました。きっと心細かったと思います。けれども、100名以上の方がボランティアとして手伝って下さいました。その方たちと触れ合いながら、帰る頃には本当の家族のように、皆さんなっていました。

ですから、私はその子どもたちを見送るときに、本当は帰ってほしくない。線量の高いと

ころに帰って欲しくない。このまま香川にいてほしい。そんな複雑な気持ちで送り出しました。それが去年のことです。

私は、このプロジェクトを通じて、原発のことをいろいろと私なりに考えました。何パーセント原発に依存しようが、依存している限り命と隣り合わせであるということ。仮に事故がなかったとしても、原発の問題はたくさんあります。労働者の被ばく問題。そして、使用済み核燃料の処分など、問題点を挙げれば限りはありません。ですから私は、即 0%にすべきだと思っています。

そこで私は、大きく3つに絞って述べたいと思います。

まず1つ目ですが、原発を止めれば産業が低迷するという声をよく聞きますが、本当にそうなのでしょうか。いったん事故が起これば、産業が低迷してしまう程度のことでは済まない甚大な被害が出ます。それは福島を見れば明らかです。何よりも人の命が大事であるということを思うと、現在稼働している原発を即停止し、再稼働もすべきではないと思っています。ですから、15%、25%の選択なんてあり得ない。どんなに大変でも即0%に舵を切る以外、今の日本に道はないと、私は思っております。

2つ目に申し上げたいことは、今の原発を動かしている仕組みを本当に信頼できるかということです。私は信頼できません。例えば大飯原発のように、活断層の可能性を指摘されて調査すると言いながら再稼働に踏み切りました。福島の事故後、線量が高いにもかかわらず、直ちに健康に被害がないと言い続けて子どもたちに被ばくさせる結果を招きました。事故後分かったことは危険性だけではありません。この国の様々な問題点が見えるようになりました。私たちがいかに正しい情報を知らされてこなかったか。一部の人のためだけに物事が決められていたかが、明らかになったと思っています。こんな信頼のできない仕組みに、私たちの命や安全、子どもたちの未来を託すことはできません。どうかこの意見聴取会においても、私たちが述べた意見を反映させていただきたいと、細野大臣には改めて思っております。

3つ目は、原発に依存しなければ成立しないような社会。原発を大前提にした社会の仕組みそのものを見直すべきではないでしょうか。広島、長崎の経験から放射能の恐ろしさを知っている国でありながら、福島でも再び被ばく者を出してしまいました。これ以上の悲劇を繰り返してはいけません。今立ち止まって考えるときではないでしょうか。全ての原発を止めて、そこから議論を始めるべきだと思っています。

最後に、今個々の家庭ではいろいろ皆さん節電されていると思います。うちでもいろいろとやっております。クーラーは使いませんし、緑のカーテンやすだれを使用して夏も扇風機で過ごしています。掃除機も使いませんし、昔ながらのほうきを使っております。子どもの節電意識が高いですから、喜んで手伝いもしてくれます。今の日本の技術や知恵を集めれば、原発依存度をゼロにすることは不可能ではないと思います。

原発に命を預けて依存しながら生活をするよりも、苦しくとも節電をしながら、安心して生活するほうを私は選択します。多くの国民は、その覚悟があると私は思っております。

ですから、国も覚悟を決めて、0%に即舵を切っていただきたいと思っております。
これで私の意見を終わらせていただきます。

◎司会者

9 番の方、ありがとうございました。

それでは、意見番号 10 番の方。10 番の方は 0%シナリオについての意見表明と伺っております。それでは 10 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 10

伊方原発、きな臭く動いてますが、そこの地元です。愛媛から地道を 3 時間半かけて、バイクで来ました。私の妻は、お父さん車で行きなさいと言いますけども、年金受給者ですし、高速代とか、油代も要りますので。私は国会議員みたいに無料パスもございませんので、ちゃんとバイクで来ました。

Nothing at all ではないけど、ゼロしかあり得ないということを最初に申し上げておきます。ありがとうございます。ごめんなさい。私も感情の起伏が激しいので。

これは直接関係ないのですが、実は、私の父が広島の通信講に昔おりまして、1 日の違いで、松山に帰った途端に原爆が落ちました。父があと 1 日おれば、私は生まれていなかったわけです。そのことは何かの引き合わせかなと思うけど、本当にそういう運動はやらなければいけないと思っています。

2 度あることは 3 度あると言いますが、スリーマイル・アイランド、チェルノブイリ、そして今回です。他山の石という言葉がありますけれど、あれは他山の石とせずです。だけど日本は他山の石としたのです。人のことは知ったことじゃないということで、何の反省もしていなかった。だから人災なわけです。これは事故調も明確にしています。私はあえてそのことを申し上げます。

さらに、この震災で、私の知人が東北 6 県にいっぱいいますが、死にました。おふくろさんが亡くなった方もあります。連絡が取れないなと言って何か連絡を取りましたら、彼はちょうど福島で仕事をして、定年だから相馬に帰ると家を見に行ったら、跡形もなかったと言うんですよ。それはいいんだけど、それからしばらくして年末になって、おふくろは見つからないという状況でしたけど、喪中のはがきが来ました。私は、非常な怒りこみ上げました。

これは被害者の立場ですが、逆に加害者の立場では、私の同級生が伊方で仕事をし、ちょっとした事故ですが責任を取らされて、それ以来ノイローゼになって電話しても出てこないという状況が続いています。ともに両方の心をむしばむのが原子力発電だと思えます。

伊方を抱える愛媛としては、やはり南海トラフ地震の可能性が多いわけですから、冗談じゃないよと私たちは思っていますが、これに関して愛媛県議会の正副両議長は、議会

で議論もしない前に、記者会見で再稼働は必要だと言っておるわけです。中村時広愛媛県知事は、国を上回る安全対策をやつとるのだからと言います。だけどそうじゃないんですね。実際に京都大学の教授が金をもらって審査をしています。これで、中立的な人が承認して、基本的にそうじゃないとおかしいんじゃないのと、愛媛新聞もはっきり言っています。そういう問題がございます。

エネルギー不足というけども、本来、電力不足とエネルギーは関係ないということですね。要するに、エネルギー源とは、石油、石炭、天然ガス、風力、太陽光線、全てそういうのを含めて第一エネルギーで、電気はそれから作られる二次エネルギーで、それを同率に議論するのは正しくない。

それと非常に腹が立つのですけれども、ドジョウだったら食べますよ。野田総理ね、ドジョウだって。煮ても焼いても食べません。私が責任を取るなんて大見えを切ってるけどさ、死んだ人をおまえ、生き返らせるのかと。私はそう言います。死んだ人間を彼が蘇生できるんだったら責任は取れるでしょう。だけど、人が死んで生き返らせもできないのに責任を取るって、のぼせ上がるんじゃないよ。辞めろと、私はそういうふうに。歴代の亡国内閣です、はっきり申し上げて。

それであと1つ。GEのCEOでさえ、原子力発電は正当化できないと新聞で報道されていますよね。そのことも謙虚に受け止めなさいよと、私は申し上げたい。

それと、高速増殖炉も実用化されていない中で、プルトニウムを作っているわけです。プルトニウムは、先ほど2番の方が言われたのは、私の本(『ロッカショ 2万4000年の地球へのメッセージ』)とはデータと違うのですけれども、これは坂本龍一さんの疑問に答えて、Sugizoさんという人が書いていますけれども、プルトニウムの半減期が2万4000年と書いています。これは自然界に存在しないわけですよ。これは核兵器にもなるわけです。なぜあえて作るのと。核兵器の原料を抱え込んでいるんですよ。だったら日本の非核三原則にも抵触するよと。あなた、これやるから勉強しろよと、私はあなたたちに言いたいですよ、はっきり言ってね。ごめんなさいね。言葉が悪いかもしれないけれど、それほどの怒りなんですよ、私たちはね。そのことをきちっと受け止めてもらわなきゃいけないわけです。

報道でも、絶対に伊方原発も国に抵触しています。鬼北町というところが全会一致で再稼働をしてはいけないという陳情を国に送っているはずですよ。本当にこの議会は聡明だと思います。そういうことを考えていただいて、危ないものは絶対に駄目なわけですから。

いいかげんやめましょうよ、こういうくだらない原発に頼る生活は。そういうことをみんな始めているわけです。それで犠牲になった御霊に捧げる言葉として何があるかというのは、私はこういうふうに思います。広島も長崎も東北もまだ終わっていないんですよ。そういう段階の中で、ばかげた政治の犠牲者になった人たちに捧げる言葉は、もう事故を起こしませんと。なぜなら核と人類が共存できないことを私たちは身をもって感じた。だから、私

たちの責任において、子や孫たちのためにこの美しい国を守るんだと。だから原発と決別するということを使うしかないと思うのです。

それは我々の責任だと思います。2030年ではないです。即刻中止していただきたい。それしかあり得ないと思います。

◎司会者

10番の方、ありがとうございました。

それでは意見番号11番の方。11番の方は0%シナリオについての意見表明と伺っております。11番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 11

香川県高松市に住む者です。職業は保険会社の社員をしております。

私はゼロシナリオを支持いたします。理由の1つ目は、日本経済の将来的な展望からです。日本経済の将来的な展望を考えれば、投資先が見出し難い情勢の中で、自然エネルギー市場ほど有望なものはないと思います。原子力は、今や世界的に信用を失い、もはや完全に時代遅れのものであります。それは、ゼネラル・エレクトリックの社長が先頃、原発は経済的に正当化できないと発言されたことから明らかです。

日本は非核国として国際的な評価もあり、我が国が自然エネルギー産業を率先すれば、未だ原子力にこだわる他国を凌駕することもできます。石油も自動車も当初は幼稚産業だったが、これを育成したアメリカは隆盛できました。脱原発に先んじたドイツがうらやむほど十分な技術力を持っていながら、なぜ日本が自然エネルギー産業をこれからの国策としないのか、不思議なほどであります。

理由の2つ目は、地震国としての危険性からです。福島原発の事故で明らかなように、地震頻発国である日本において、原発を稼働させることは危険が大き過ぎます。今でも福一の4号機が再度の地震で倒壊すれば、国土の半分はおろか北半球の広域において放射能汚染することが懸念されています。既に8月と夏本番ですが、電力需給を見れば、原発なしでも、経済も生活も不自由はしておりません。むしろ、第2、第3の原発事故による国土の汚染と居住環境の喪失、経済の破綻の方がはるかに恐ろしいと考えております。

この地震国としての危険性という点で、大飯原発が再稼働され、その下に活断層の存在が指摘されています。同様に、断層に近い伊方原発の再稼働が浮上しております。琵琶湖や瀬戸内海が放射能汚染され死の海と化した場合、どうするつもりなのか。

大飯原発のストレステストについては、3月13日に安全委員会の最終的な審査がありまして、私は傍聴してまいりました。4点のことを指摘したいと思います。1つ目、非常用発電装置の稼働、蒸気逃し弁の開放操作、手作業で30分から38分でできるのとこと

でした。放射能汚染が飛び交う中で、本当にこんな短時間でできるのでしょうか。2 つ目、福島原発を襲った津波は最高 15 メートルですが、大飯の許容津波高さは 11.4 メートルというふうにされております。3 つ目、地震時に技術者などが 3 キロメートルから 10 キロメートル圏内から総勢 186 人緊急で来るというふうに想定されております。ただし、地震や津波の環境の中で、あの狭い大飯の半島にそれだけ急激に来られるものでしょうか。4 つ目、ストレステスト一次は、3、4 号機のユニット単位の評価であり、放射能汚染による作業困難は、こうしたシビアアクシデントについては、プラント単位の二次ストレステストで実施することにしております。これはやっておりません。

以上の懸念事項の指摘は、出席された先生方から出た指摘です。何が安全でしょうか。大飯の下には活断層の指摘もあります。にもかかわらず国は大飯原発を止めようともしておりません。ましてや、「原子力基本法」に「安全保障に資する」の一文を入れ、核の軍事利用につながる道筋を付けたようなことをやっております。

今回大事故が発生しても「直ちに健康被害はない」とうそぶき、20 ミリシーベルトでの高線量の環境下で県民に生活を強制しております。SPEEDI を隠蔽して避難者を被ばくさせたくせに、アメリカ軍にはそれを提供しております。我が国の原子力政策は国民に対する無数のうそ、欺瞞、やらせの上に成り立つものです。ですから、私はゼロシナリオしか選択のしようがありません。

◎司会者

11 番の方、ありがとうございました。

それでは意見番号 12 番の方。12 番の方は 0%シナリオについての意見表明と伺っております。12 番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 12

私は保育所をしてきましたので、子どもたちの命、健康、そして未来を守ることを第一に考え、原発ゼロを支持したいと思います。

日本は大変地震の多い国です。過去の歴史に学び、最新の研究を見れば、これから巨大地震が続く可能性は十分にあります。それなのに安全対策が不十分で、猛毒の使用済み核燃料を無害化できず、安全に保管できない状態で原発を動かすことは大変に危険です。なぜ、私たちの世代が手に負えず、コントロールできない危険なものを、次の世代へ押し付けなければいけないのでしょうか。それはあまりにも無責任だと思います。

また、放射能の影響も大きな問題です。広島、長崎への原爆投下、繰り返されてきた核実験、スリーマイル島、チェルノブイリの大事故、そしてイラク戦争で使われた劣化ウラン弾によって、放射能が大量にばらまかれてきました。その後、様々な生物に異変が起き、特に放射能の影響を受けやすい子どもたちは、いろいろな病気になり苦しんできました。

しかし、日本では直ちに影響はないと繰り返し、ごまかし続けています。被ばくによる健康被害を過小評価しています。被ばくを否定するよううその情報を流すのはやめてください。多くの国民はもう簡単にはだまされません。本当に残念ですが、またうそを積み重ねて、大飯原発が再稼働されてしまいました。専門の研究者が指摘している危険な活断層について、一刻も早く正しく調査をするべきだと思います。そして、危険な原発がなくても地元の方たちが安心して暮らせるように、政府が責任を持って、新しい産業を作るなどの支援を行い、そのために私たちの税金を有効に使ってほしいです。

次に、再稼働が狙われている愛媛県の伊方原発、北海道の泊原発にも危険な活断層があると指摘されています。決して危険な原発は動かしてはいけません。私たちは3.11の大きな地震、大津波、福島原発の大事故を経験し、自然エネルギーの巨大さ、放射能被害の深刻さ、そして原発の安全神話は原子力村の人たちによるうその塊だったことを知りました。しかし、今でも原子力村の人たちはほとんど反省せず、うその情報を流し続けています。原発を動かさないと停電すると繰り返すのはなぜですか。こんな猛暑が続いているのに、クーラーや冷蔵庫が使えなくなるかもしれない。命にかかわる医療器具が使えなくなる。信号が止まって、交通事故の危険が高まると、私たち、一般の庶民は脅され続けています。

でも、電気を一番大量に使っているのは大企業です。それに比べたら、一般家庭や公共施設の電気使用は小さいはずで、経済的にも大変余裕のある大企業が社会的責任を果たして、しっかり節電に取り組めば、弱い立場の方たちが命の危険にさらされてまで停電に協力する必要などありません。大飯原発を動かした関西電力は、火力発電所を止めてしまいました。原発を動かさないと、電気が足りないと、また平気でうそをつきました。私たち、国民の多くは福島の大事故の後、自分たちが何も知らず無知だったことを深く反省し、原発に関する専門書を読んだり、勉強会にも積極的に参加し、子どもたちを守るために、日々真剣に取り組んでいます。

ですから、知事の方たちがヘルメットをかぶって、原発を見ただけで安全が確認できるはずがありません。そんなうそを信じることはできません。パフォーマンスはやめてください。大飯原発の安全対策は全く不十分です。活断層の調査もまともにできないのに、どこが安全なんですか。安全神話にしがみつき続けるのであれば、子どもたちを守ることはできません。

首相は国民を守るために再稼働すると言いましたが、多くの人はそれを聞いて、あきれ果て、このままではまた福島のような大事故が起きてしまう大きな危機感を持ちました。『裸の王様』という有名な童話があります。王様は全くの裸ですが、お金もつけか考えていない人たちから、王様は素晴らしい服を着ているとうそをつかれていますのに、自分が本当は裸であることが分からない。認めることができない。哀れな姿です。今の首相たちは裸の王様です。本当に国民を守る心があるのなら、安全対策が不十分で危険な大飯原発を止めてください。

子どもたちの命が懸かっています。今、多くの日本人は安心して暮らせる未来をつくりたいと願っています。経済成長、お金もうけのために、安全な環境を壊したくはありません。この猛暑の中、首相官邸前、そして全国でたくさんの人たちが再稼働反対の訴えを続けています。この真剣な願いをしっかりと受け止めていただけるようお願いいたします。

◎司会者

12 番の方、ありがとうございました。これで、予定していた方々からの意見表明は全て終了いたしました。

意見表明者の皆様の中で、これまでの発言内容についてのご意見、ご感想がありましたら、お一人様 2 分以内でご表明いただきたいと思います。発言されたい方は挙手をお願いできますでしょうか。

それでは、7 番の方と、10 番の方から挙手をいただきましたので、先ほどと同様の順番でご発言をお願いしたいと思います。それでは、番号 7 番の方、ご表明をお願いいたします。

◎意見表明者 7

はい。まず、私は政府に対して、もっと正確な情報を流してほしいのです。与えてほしいのです。今のみんなが恐怖感にあおられている状況をつくり出したのは、政府やマスコミです。政府の責任です。ますます復興を困難にしているのも政府の責任です。

それほど危険なものなんだから、子どもころからちゃんと教えましょうよ。聞いたところによると、日教組は「放射能に関することは教える必要はない」と言ったそうです。それが余計な不安感をあおっているんじゃないでしょうか。

以上です。

◎司会者

ありがとうございました。それでは番号 10 番の方、ご表明をお願いいたします。

◎意見表明者 10

はい。ちょっとあがり症とか、感情の起伏が激しいんで、今は落ち着きましたけども、やっぱり怒りがありますから、多少乱暴にもなるかもしれません。やっぱり 0%の方、皆さん、私と同じように、即刻と言われたことを非常に嬉しく思います。

先ほど、私が申しあげましたけど、2 度あることは 3 度あると申しあげました。スリーマイル・アイランド、チェルノブイリ、そして福島です。2 度目に学ばずに、3 度目の福島へ来たわけです。じゃあ今度はせめて福島に学んでほしいと思いますけれども、その姿勢すら政府には感じません。

もっと「人の命をおめえら何だと思ってんだ。このやろう」と私は言いたいわけです。あな

私たちは莫大な歳費を取っていいかもしれないけど、細野さん、がれきをばらまくのもやめてくださいよねって私は申し上げたんです。これは根拠があります。私の友人がガイガーカウンターを買いました。釣りが好きで海によく行きます。測っています。ものすごく大阪まで流れています。いいかげんにしろ、きちんとしろと、本当にぶん殴ってやろうかと思うぐらい、私は怒りで燃え切っています。たかだか1%そこらの人間のために、人の命を奪う権利はあなたたちにはないんだ。民主党、野田内閣は、憲政史上まれに見る史上最悪の亡国内閣です。そう言われぬようにきちんとしなさい。私はそれを申し上げます。

以上です。

◎司会者

10番の方、ありがとうございました。そのほかの方はございませんでしょうか。それでは、まず1番の方からお願いいたします。

◎意見表明者 1

先ほどかなり誤解を与えてしまったかと思われましたので、先にお断りさせていただきます。私は地質調査技士で、造岩鉱物一級鑑定士でもある A と申します。中央線の武蔵境。ちょっとご存じない方がいらっしゃるかと思しますので、吉祥寺から車で15分ぐらいのところからまいりました。

私の結論なんですけれども、先ほど、検討した日本経済は及ぼす影響を考えれば、15シナリオというのはもう意味も成さない。ゼロシナリオしかあり得ない。あるいは今日から即刻原子力発電を停止する。これ以外にあり得ないと思っております。

その理由なんですけれども、国内に既に150基以上もある、ガスコンバインドサイクル発電。こちらは建設期間が1年と非常に短く、ガスコンバインドサイクル発電をもっとマスコミは報道するべきです。これをマスコミが報道しないというのは、恐らく電力会社、電力村からお金をもらっているのではないかと。私は、非常にそういった意見を持っております。

それから、先ほど来、この聴取会がおかしいということを言いましたけれども、時間が延びても構わない、やはり双方向型いいという方、先ほどちょっと挙手いただいた方、どなたですかね。もういらっしゃいませんか。延びても双方向型、質問したいという方、いらっしゃいませんか。こういったやり方はおかしいと思います。ちゃんと意見表明者、いらっしゃる方、意見双方の交換をして、初めてこういった聴取会は成り立つと思っております。ですから、このやり方はおかしいので、改めて原発を即座に停止した上で、もう一度きちんとした聴取会を開いていただきたい。

これが私の意見であります。以上です。

◎司会者

1番の方、ありがとうございました。

それでは最後に 3 番の方もお願いしたいと思います。

◎意見表明者 3

先ほど時間がなくなりまして申し上げられなかったんですけど、原発を再稼働しなければ、幾つかこういうことがあるっていう、私のようなもの、皆さん、幾つか列挙されましたけれど、その中の 1 つに、地元の仕事がなくなるということをすごく言われます。廃炉にするというのは、普通の原発で 40 年かかると書かれております。そうしたら、その 40 年は人間がそれは解体しなければいけないわけで、仕事がなくなるわけではない。稼働とか、点検中にどれだけの作業量があって、その廃炉の作業と比較して、仕事の量がどのぐらい減るものか、そういうデータを、私はぜひ出していただきたいと思うんです。

それで仕事が減るとすれば、今までのいろいろな交付金が地元についていたはずですから、それを産業の育成とか、仕事を代わる間の生活補助とか、それはもう皆さんで知恵を絞って、生活の方法を変えるような何かができないものかと思っております。

それから、今、伊方から来られた方のご意見もお聞きしましたけれども、この間、訴訟がありました。地元の方は誰も名前が出ていないと。それはたぶん、私も田舎に住んでおりますからよく分かりますけれど、みんな自分の名前が言いたくても出せないことがあるんだと思うんです。それで、どこでもデモがあると、よそから騒いでいるといわれますけれども、結局、言いたくても言えないから、よその人が来て騒いでいるふうに見えても、今、1 人のデモ参加者の後ろに 100 人の人がいるとよく言われます。それは本当に伊方の人たちも言いたくても言えない人がたくさんあるんだろうと想像いたします。

もう 1 つは、私は民主党の政権ができたときに、「コンクリートから人へ」がマニフェストの中にありまして、本当に期待いたしました。菅直人さんも四国八十八カ所を回られて、四国の山林がどのようになっているかを目でご覧になったと思うんです。都会から田舎へ帰ってくる人があって、森の再生とか、里山の再生とか、そういうものができれば、すごく人の移動が起こって、田舎の過疎が少しは解消するのではないかと期待したんです。そのことがまだ実現しないうちに、政権が今のような状態になって、大変残念に思っております。

以上です。

◎司会者

3 番の方、ありがとうございました。

それではもうおひと方、8 番の方、最後をお願いいたします。

◎意見表明者 8

細野大臣がお見えになっているので、先ほどがれきの問題に言及された方がいらっしやいました。それで大阪市、大阪府と今回岩手県との間で契約がなされたという報道を

耳にしました。細野大臣が以前『モーニングバード!』の玉川さんの番組で、木質がれきについては、六価クロムとか、ヒ素が混ざっているの、宮城県とかが計画している緑の防波堤計画には危なくて埋められないと言及されていました。どうして、そんなものを持ってこられるのでしょうか。燃やして大丈夫なんですか。放射線防護の考え方からいうたら、いったん出てしまった放射性物質と人間の生存環境を、なるべく切り離すというのが基本だと思います。

食品についても同じなんですが、福島のほうは高濃度に汚染されています。それをわざわざ遠方の九州や大阪などに持ってくる必要はないでしょう。やめたらどうですか。それと、食品についてはまだまだ検査体制が不十分です。福島県の知事とかがちょこっとだけ検査して安全だと宣言させて、それから後、いくらでも出てきているではないですか。丸太で漏れているんですよ。本当にやる気があるんでしたら、児玉先生とかが作っている、連続して全体検査ができるような装置を、全国の農協とか、海産物、魚市場に全部配布すべきなんです。そうして、全体検査をして、これよりありませんということを信頼されるというたら、そこまでやらなきゃ無理です。

今、福島県とか政府の機関がいくら検査しましたといっても、下限値ごまかしたり、そんなことばかりやっていたら、信頼なんて得られるわけがないんです。そういう検査体制の在り方。それから、防護について、子どもを安全側に見るというやり方。それが今の政府には全く欠けていると思います。

日本国民を守ってください。細野さん、環境大臣というのはそういうことじゃないんですか。あなた、がれき拡散してるじゃないですか。やめたらどうですか。

以上です。

◎司会者

8 番の方、ありがとうございました。

皆様、本日は大変貴重なご意見をたくさんありがとうございました。

<大臣による閉会の挨拶>

◎司会者

それでは、最後に細野環境大臣から、ごあいさつをさせていただきます。

◎細野大臣

きょうは本当に皆さんありがとうございました。特に発表をしていただきました 12 名の方は、大変それぞれこういった場所でお話することのご準備大変だったと思いますし、いろいろな思いを述べていただいて、私も全て聞かせていただきまして、本当に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

また、きょうは、会場の皆さんにも本当にご協力をいただいて、それぞれ考え方には、

発表された方によって少しずつまた違いもありますけれども、そういったものを冷静に受け止めていただいて、本当にいい意見聴取会になったと思っております。全ての今日ご参加をいただいた、協力いただいた皆さんに感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

またもう 1 点、私は本当に今日伺ってよかったなと思いますのは、高松、そして四国においても、福島の皆さんのことをこれだけ考えていただいている方がたくさんおられるということに、本当に強い感銘を受けました。9 番の方だったでしょうか？ お子さんをこちらに夏休み、いろいろと面倒を見ていただいたという話もありました。本当に多くの皆さんにこうして福島のことを考えていただいていることが、私は福島の皆さんも勇気づけているというふうに思いますし、我々の至らない点がたくさんあるというふうに思っておりますので、その責任を、今日改めて感じました。

若干個人的なことにもなりますが、私は毎日福島のお米を食べています。私の子どもは中学生ですが一緒に食べています。それは安全が確認をできているからです。毎週のように福島に行っていますが、帰りには果物を買ってきます。今はモモの季節です。ブドウももうすぐおいしくなります。秋にはナシがなります。リンゴもおいしいです。私はそれはもちろん自分でおいしく食べているし、周りにも配っているし、家族もみんな食べています。

この間、静岡から 500 人弱の後援者を連れて福島に旅行に行きました。いわきで買い物をして、会津で泊まりました。そのことによって、福島の皆さんの違う顔も見えてきました。

〔会場内より発言あり〕

ですから、福島のことについて一言だけ申し上げたかったことは、それは、福島にお住まいの方もいらっしゃる、福島県内にですね。一方で、福島で生活するということを選ばれなかった方もいらっしゃいます。両方我々はしっかりと寄り添っていかなければならないということなんです。

ですから、今福島についていろいろなご意見がありました。私は福島で生活をされている方にとって何がいいのかということも本当に考えて、これからやっていかなければならないと。政府というのは。

〔会場内より発言あり〕

すみません、ちょっと私が若干個人的なことも話し過ぎましたので、そういったご発言。

〔会場内より発言あり〕

お座りください。すみません。ちょっと私の発言でいろいろと、最後閉めますのですみません、ご理解ください。

私は、このことだけはしっかり申し上げたいと思ったのは、今日確かに政府関係者が前に座ってます。で、皆さん方からご覧になると、我々のいろいろな判断 1 つ 1 つに疑念を持たれることはあると、そのことは我々も反省をしなければならぬと思っております。

ただその中であって、私どもも、本当に人として何が正しいのかということを考えて考えて判断をして、そして国民の皆さんとの対話も大事にしているということを、ぜひ皆さんに分かっていただきたいと思ひまして、その話をさせていただきました。

十分にやり方を含めて、皆さんとのこのキャッチボールができるような会にし切れていないところについては、どうしても制約がありますので、申し訳ないというふうに思っておりますが、私としては、今日は本当に会場の皆さんにもご協力を頂いて、様々なエネルギー政策はもちろんでありますけれども、それと同時に、福島のことについてもこうしてお話を頂いたことは本当にありがたかったというふうに思っております。

全ての皆さんにご協力を頂いたことに、最後に心より御礼を申し上げまして、結びのごあいさつとさせていただきますというふうに思います。本当にありがとうございました。

<閉会>

◎司会者

それでは以上をもちまして、エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会を終了させていただきます。お帰りの際には、お手元のアンケートにご記入のうえ、出口にて係の者にお渡しいただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、お忘れ物などございませんよう、お気を付けてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。